

2017年10月24日

大東市長 東坂 浩一 様

大阪社会保障推進協議会
会長 井上 賢二
〒530-0034 大阪市北区錦町 2-2
大東社会保障推進協議会
会長代行 中村 鎮夫

公開質問書

大東市の介護保険・総合事業について、最近当局はその「問題点」を一部認め、一定の「軌道修正」を行ったかのような説明をされています。しかし、いまだ明らかになっていない点もありますので、下記の質問をさせていただきます。

については、2017年11月8日までに文書にてご回答をいただきますようお願いいたします。

なお、この質問及び貴市の回答については当方で公開させていただきますのでご承知おきください。

記

大東市 介護保険・総合事業に関する質問

1. 「卒業」強制問題について

担当者は、総合事業移行にあたって「卒業の強制が一時期あったことは事実」と認め、そのようなことのないよう地域包括支援センター職員等へ「周知」を行ったと述べました(8月31日回答懇談会)。

質問①

「卒業」の強制とは具体的にどのようなものであったのか。また、何人に対して行われたのか

質問②

「卒業」強制の結果、サービス利用が継続できなくなった人にどのようなフォローを行い、現在はどうなっているのか

質問③

地域包括支援センター職員等に対する「周知徹底」とはどのような方法、内容で行ったのか

質問④

「卒業」強制を生み出した原因についてどのように分析しているのか

2. 「NHK クローズアップ現代」で放映された事例について

(1) デイサービスからの「卒業」事例について

担当者は、「現在は通所リハに行くと腰痛が改善し、自分で買物に行けるようになって喜んでい

る」(8月31日回答懇談会)と述べている。また、担当者のフェイスブックには、「自立という言葉の被害者のように取り上げられていた事例の1人目の方は今は通所リハに通い始めています。もともと、通所介護では楽しいだけで腰痛改善へのアプローチが不足していました。それでは、いくら介護サービスを利用していても自立は目指せません。」と書かれていました。

質問①

本人に対して、デイサービスを打ち切るにあたってどのような説明を行ったのか。十分な納得は得られたのか(本人は「あなたは風呂に入れるし自分でできるからデイは利用できない」と言われ、「大東市は金がないから」とも説明され一方的に利用できなくなったと認識されている)

質問②

本人は昨年4月末でデイサービス利用ができなくなってから、今年6月までの1年間「通所サービス」が内容状態で放置されているが、適切な対応であったのか。

質問③

本人が孤独感の解消、社会的交流の場としてなじんできたデイサービスの代わりにどのような「通いの場」を提供されたのか(診療所での短時間のリハで会話の時間もなく、デイサービスのような楽しみはないと訴えられている)

質問④

通所リハビリによって腰痛が改善し、買物が可能になったというが、何を根拠にそのような説明をされたのか(本人は3年程前から電動自転車で近隣へは買物に行っていた。腰痛は今も続いていると訴えられている)

質問⑤

本件事例は大東市担当者が認めた「卒業強制」の一つであるのか(本人が利用されていたデイサービスセンターには、大東市から他に数人の要支援者が利用されていたが、本人の「卒業」と前後して大東市の要支援利用者はすべて利用できなくなり、現在も一人もいないとのことである)

質問⑥

本人は、総合事業移行前は、「バランスのとれた食事を摂取する」という目標でホームヘルパーによる「食事内容の把握」等や「調理」が行われていたが、これも終了となり、現在は「生活サポート事業」(有償ボランティア)による「浴室掃除」のみに切り替わっている。高血圧、狭心症等の疾患をもつ利用者への栄養・食事に関するサービスを打ち切った理由はなにか

(2) 短期間で要支援1から要介護5に悪化した事例

担当者は「あれは本人の医療拒否があった」(8月31日回答懇談会)と述べ、フェイスブックには「医師もプラン担当者も、利用者が通所リハに行く意味を理解し、自らサービスの利用を選択(自己決定)するだけの説明能力が足りなかったということだと思います」と書かれていました。

質問①

「医療拒否」とはどのようなことをさして言われているのか(本人は糖尿病の治療を始めてから診療拒否などしていない)

質問②

通所リハについて医師の「説明能力」不足とはどのような事実に基づいて述べたのか(医師は当初から通所リハビリの利用を勧めたが、予防プランには提案もされていない。本人も「拒否などしていない」と明言されている)

質問③

予防プランで「元気でまっせ体操」を指導する訪問型Cサービスを提供し本人に合わず中断し、状態悪化に結びついたことについて大東市としてどのようにとらえているのか(本人はC型サービスに対しては大きな不満を述べている)

質問④

専門医がその必要性を指示したサービスが適切に提供されず、本人の心身の状態に合わない総合事業サービスが押しつけられた結果、サービス利用が中断し、その後状態が急速に悪化した本件の事例について、大東市としてどのようにとらえているのか

3. サービスからの「卒業者」の把握について

大東市の総合事業では平成28年4月～平成29年1月で訪問89人、通所125人のサービス卒業者がいると説明されています(本年4月19日高齢介護室)。卒業後の状況については、「現在確認作業中です」(平成29年6月27日付け回答)とあります。

質問

確認された状況についてお答えください

- ① 自宅で生活(下記②～⑩を除く)
- ② 元気でまっせ体操に参加
- ③ 他の通いの場に参加
- ④ ボランティア活動をしている
- ⑤ 自費でサービスを使っている
- ⑥ 介護保険サービスを再び利用
- ⑦ 入院
- ⑧ 死亡
- ⑨ その他(転出等)
- ⑩ 不明